

## Q5:川辺川の砂防事業について教えてください。

A5:川辺川流域では、昭和38年、39、40年に3年連続して発生した集中豪雨によって、いたるところで大規模な土砂崩壊が相次ぎました。特に昭和38年8月には、五木村の横手谷において大規模な土砂崩壊が生じ、五木村頭地～宮園間の川辺川本川の河床が2～7メートル上昇し、治水・利水上大きな障害が生じました。

このため川辺川流域の砂防事業は、昭和42年度から熊本県に変わり国が実施することとなり、災害を受けた箇所や土砂流出の著しい溪流において砂防施設を重点的に整備してきました。

### 【昭和38年五木村頭地地区の河床上昇の状況】



横手谷の大規模崩壊に伴い約230万 $m^3$ の不安定土砂が流出するなどして頭地～宮園間の川辺川本流の河床が2m～7m上昇しました。

### 【その他の災害状況】



昭和57年7月13日(梅雨前線)  
(相良村山口谷川地区)



昭和59年6月29日(梅雨前線)  
(五木村竹の川地区)



平成3年9月(台風19号)  
風倒木状況(小川地区)



平成16年8月(台風16号)  
村道崩落状況(泉村樫木地区)



平成16年8月(台風16号)  
一般国道445号崩落状況

## ◎これまでの主な災害

発生年月日	原因	土砂災害の状況
S38.8.16 ～18	梅雨前線	泉村・五木村・相良村 死者・行方不明者 12名 全半壊流失家屋 211戸 浸水家屋 296戸 (出展:昭和38年熊本県災害誌 熊本県)
S39.8.22 ～24	台風14号	泉村・五木村・相良村 死者・行方不明者 4名 全半壊流失家屋 23戸※、浸水家屋 152戸 (出典:昭和39年熊本県災害誌 熊本県)
S40.6.28 ～7.6	梅雨前線	泉村・五木村・相良村 全半壊流失家屋 41戸※ 浸水家屋 308戸※ (出典:昭和40年熊本県災害誌 熊本県)
S57.7.24	梅雨前線	泉村・五木村・相良村 全半壊流失家屋 2戸※ 浸水家屋 82戸※ (出典:消防・防災・保安年間 熊本県)
S59.6.29	梅雨前線	五木村 死者、行方不明者 14名 全壊家屋 5戸 (出典:消防・防災・保安年間 熊本県)
H3.9.14	台風17号	泉村・五木村・相良村 風倒木被害面積 488.7ha (出典:平成3年各村被害申請書)
H3.9.27	台風19号	(出典:八代営林署・多良木営林署資料)
H10.6.22	梅雨前線	五木村栗鶴 斜面崩壊栗鶴川河道閉塞 崩壊土砂量 約4千m <sup>3</sup> 6世帯 12名避難 (出典:川辺川ダム砂防事務所)
H16.8.30	台風16号	五木村 国道445号崩落 約200m 泉村 縦木地区村道崩落 1,746世帯 5,780名避難
H16.9.7	台風18号	泉村・五木村・相良村栗鶴 山腹崩壊発生 216世帯604名避難 (出典:相良村・五木村・泉村 資料)
H17.9.6	台風14号	五木村 国道445号崩落 約100m 八代市泉町 国道445号崩落 約140m 87世帯 228名避難 八代市泉町・五木村・相良村 山腹崩壊発生 (出典:相良村・五木村・泉村 資料)

※泉村のうち所在不明のものは除く

### 川辺川流域の砂防は

- ①人家、公共施設等に対する直接的な土砂災害防止
- ②下流河川の河床上昇による洪水災害の防止

を図ることを目的とした事業であり、平成16年度までに、94基の砂防えん堤及び7箇所  
の流路工を整備しています。

元井谷川第2砂防えん堤  
(平成12年3月完成)



椎葉谷川流路工  
(昭和58年3月完成)

